

大銀杏と大石段

本殿に通じる大石段は 12 世紀に造られたもので、楼門前からは鎌倉の町と海を見晴るかす素晴らしい景色が眺められます。樹齢 1000 年以上とされた巨大な銀杏の木が、最近まで石段の隣に立っていました。この木には、それにまつわる、源実朝（1192 年-1219 年）が弑（しい）された出来事があります。

鎌倉幕府三代将軍の実朝は、甥の公暁（1200 年-1219 年）によりこの石段の上、若しくはその近くで弑されました。後世の伝えるところでは、公暁は「大銀杏」の後ろに隠れたと伝わっています。この話は大衆の想像に訴えるところがあり、数多の歌舞伎やその他戯曲にインスピレーションを与えました。

2010 年 3 月、この有名な木は強風のために倒れましたが、元の木の根から若芽が芽生えました。若芽の一つは元気な若木に成長し、将来は神社と鎌倉の町のシンボルとなるでしょう。倒伏した大銀杏の切り株と幹の一部は保存され、現在は根に近い切株は後継樹のわきに移植され、その上の部分は境内にある鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムのカフェに展示されています。